



「戦争法案阻止」のために、全力をあげよう 組合員が、それぞれのできる取り組みを進めよう！

参院審議でも、戦争に突き進む姿勢が自衛隊の内部資料によって明らかになるなど、戦争法案の実態が浮き彫りになるにつれて、戦争法案反対の声も日増しに強まっています。大臣の答弁も二転三転してしどろもどろになり、挙げ句の果てに、若者のいのちを危険にさらすこの戦争法案の審議に対して「そんなことはどうでもいい」などと総理が発言しています。



20日の駅前木曜行動には100人が集まりました。組合員、元組合員も多数参加しています。

戦争法案への反対があまりにも強まったため、60日ルールを使った衆院再可決までは耐えられない。その前に、参議院で9月上旬をめどに早期に強行採決してしまった方がよいという官邸関係者の声があるという報道もあります。戦争法案反対の世論を前に、安倍政権も余裕をなくしています。戦争法案の強行などできなくなるよう、「戦争法案反対」の圧倒的な世論を安倍政権にぶつけていく、そのための取り組みを、みんなで進めましょう。

8月30日(日)には「全国100万人行動」も提起されています。戦争法案阻止のために、全力をあげましょう。それぞれのできる取り組みを進めていきましょう。

「戦争法案阻止」のための取り組み

① 8・30国会10万人、全国100万人行動

- ・釧路駅前行動…8月30日(日)15時～、釧路駅前、プラカードなどあれば持って参加しましょう。
- ・厚岸行動…8月30日(日)15時～、イオン厚岸店前交差点、厚岸・浜中の先生はこちらへ参加を！

② 釧路行動実行委員会の集会&デモ行進

- ・9月5日(土)15時～、幸町公園、集会後市内デモ行進
- ・9月13日(日)15時～、幸町公園、集会後市内デモ行進

③ 釧路駅前の土曜宣伝(釧労連)

- ・8月29日・9月5日・12日・19日・26日、13時～、釧路駅前
- ・宣伝カーからの訴え、アピール、署名、ビラ配布などを行っています。
- ・厚岸イオン前でも、土曜行動を毎週行っています。13時～

④ 木曜行動・釧路駅前集会(釧路行動実行委員会)

- ・9月3日・10日・17日・24日、18時～、釧路駅前
- ・毎回100名近い参加者が集まり、様々な立場の方からの訴えがあります。



⑤平和を求める市民のつどい（釧路九条の会）

- ・ 9月5日(土)10:00~11:45、まなぼっと多目的ホール、参加費300円
- ・ 今弁護士講演（山本さんの予定でしたが、急病のため、講師が変わりました）

⑥『教育』から見る 戦争する国づくり・人づくり」講演会（釧路革新懇9月例会）

- ・ 9月14日(月)18:30~、道東勤医協会館2階会議室、参加費300円
- ・ 講演『教育』から見る 戦争する国づくり・人づくり」戸田竜也さん（釧教大）
- ・ 斎藤書記次長も、現場の実態を報告します。

⑦与党議員への抗議FAXの取り組み

- ・ 組合の事務所から与党議員宛に抗議のFAXを集中させます。
- ・ 各学校で、地域で、戦争法案反対の声を集めましょう！
- ・ 現在、30枚ほど集まっています。

※2学期が始まり、忙しい日々が続きますが、子どもたちに平和な未来を手渡すため、大人の責任として、戦争法案阻止のためにできる取り組みを進めましょう！

私は
戦争法案に
反対します

北海道 市町村の有権者より

8月22日厚岸土曜行動での斎藤書記次長の訴え

戦前は、治安維持法違反を口実に、様々な思想弾圧がありました。太平洋戦争開戦前の1940年に起きた、京都大学の俳句事件も、その一つです。

「戦争が廊下の奥に立ってゐた」これが、当時問題になった俳句の一つです。「戦争が廊下の奥に立ってゐた」気付いたら、戦争がもう目の前に迫っていたということです。今、参議院では戦争法案が審議されています。この俳句と同じように、戦争がひたひたと迫ってきつつある、そんな危機感があります。

私は、8月の初めに、原水爆禁止世界大会に参加してきました。管内の多くの方のカンパによって、広島に送り出していただきました。広島では、たくさんの方の被爆者の方の話を聞くことができました。

坪井直さんは、当時20才の学生で爆心地から1.2キロの地点で吹き飛ばされました。あてもなく逃げる中でいろんな人に出会いました。右目が飛び出した女学生、ガラスの破片が突き刺さった人、飛び出した腸を抑えながら歩く婦人、どこが顔かわからない死体。みんな夢や希望を持っていた人たちです。

そんな折、臨時の診療所が開設されたと聞き、行ってみると、ただ人が集まっているだけ。しばらくすると、軍の軽トラックがやってきて、女性や子どもには目もくれず、若い男性だけを治療のために連れて行きました。軍にとって女性や子どもは戦争に役に立たないから、助けても意味がないのです。

その話には、私は、戦争というものの本質を感じました。軍隊は、国民を守るためにはいるのではない。安倍首相は、国民の生命、財産を守るためだと言いますが、先の大戦の状況を見ても、女性や子ども、若者のいのちが軽く扱われています。いざとなれば、軍隊が守ってくれるなんていうことはありません。

広島で被爆したカナダ在住のセツコ・サーローさんは、13歳で中学二年の動員学徒だったその日、爆心地から1.8km離れたところで被爆しました。当時の悲惨な状況について生々しい体験も語りましたが、私が印象に残ったのは、留学でアメリカに渡ってからの話です。

セツコ・サーローさんがアメリカへ渡ったその年は、ちょうど、アメリカの水爆実験がピキニで行われた年でした。渡米してすぐに、水爆実験についてどう感じたか、インタビューを受けたセツコ・サーローさんは、広島と長崎は、核実験の始まりではなく、終わりであるべきだったのですと答えました。

当時、北米では、原爆投下に対して肯定的な意見がほとんどでした。このインタビューが掲載されると、「日本へ帰れ」「真珠湾を忘れるな」などと書かれた手紙が届いたといえます。殺すぞという脅迫状もあったそうです。

これには、セツコ・サーローさんも随分と思い悩んだそうです。でも、この事件は、結局はセツコ・サーローさんの決意を強めただけだったといえます。その後、平和運動を力強く続けた結果、今は北米でも核兵器廃絶の声は大きなひろがりを見せています。どんな状況にあっても、たとえ一人しかいなかったとしても、行動をしていく。そのことの意味を強く感じました。

この他にも、多くの被爆者の話を聞きました。こんなに悲惨な戦争は、絶対にいけない。そして、戦争反対の声をあげ続けていかなければならない。その決意を強くした、世界大会参加でした。

8月6日の朝、私は、原爆の子の像の前で、平和記念式典の様子を見ていました。式典では、安倍首相も話をしました。その前日の国会審議では、戦争法案が成立すると、核兵器も運べるようになる。そのことが明らかになった、その次の日でしたから、安倍首相がどのように説明するのか、注目を

て聞いていました。

しかし、安倍首相は、戦争法案について、何一つ語りませんでした。「丁寧に説明する」とあれだけいいながら、一番「説明」しなければならない被爆地で何も語らないのです。当たり障りのない、何も心に響かない言葉ばかりでした。そして、非核三原則についても言及しませんでした。少なくとも、94年以降の歴代総理の中で、非核三原則に言及しなかったのは、今年、安倍首相だけです。非核三原則について言及しなかった、そこに安倍首相の本音があったのだらうと思います。

戦争法案反対の声が日増しに強まり、官邸では、このまま60日ルールを使って数の方で衆院再可決なんてしてしまったら、安倍政権にとって大きなダメージになる。その前に参議院でさっさと可決してしまったほうが、傷口も小さいのではないかと。そういった声があるとの報道もなされています。

とんでもない話です。そうした安倍政権の姿勢は、私たち国民の声とは全くかけ離れています。これまでの国会審議では、数々のウソや矛盾が明らかになり、大臣の答弁も二転三転してしどろもどろになり、答弁不能に陥っています。挙げ句の果てに、若者のいのちを危険にさらすこの戦争法案の審議に対して「そんなことはどうでもいい」などと総理が発言してしまふ。

総理は「言い間違えただけで、本質とは関係ないという意味だ」と言いますが、そうではありません。数々の嘘やごまかしを積み上げてきて、自分でも訳が分からなくなっているから、混同して、支離滅裂、しどろもどろになるのです。それを「どうでもいい」という安倍首相は、あまりにも認識が軽すぎます。

安倍政権は、アンデルセン童話の裸の王様と同じです。ありもしない嘘の着物を着て、家来たちは、皇帝の権力を恐れるばかりに何も言いません。権力に阿る、偏見に捉われる大人たちに対し、子どもの放った「王様は裸だ」という言葉。これが、今こそ必要なんです。いんちきなものはいんちきなだと、みんなで声をあげ続けることが大事です。

8月6日の夜、私は、広島の平和公園から、灯笼流しを見ました。とても幻想的な、美しい風景でした。小さな光の一つ一つに、原爆で亡くなった方々の命があるのだと思うと、人間のいのちのはかなさを感じました。

しかし、いのちのはかなさと同時に、私は、人間の強さとか、可能性も感じました。一つ一つの灯笼は、とても小さな弱い光ですが、それがたくさん集まった時に、この、灯笼流しの幻想的な美しい風景を作り出すのです。

安倍政権にとって、私の一人の声は、取るに足らない、小さなものです。でも、私たちがみんなで声をあげ続けていくこと、全国で一斉に、戦争反対の声をあげ続けていくことで、戦争法案を強引に押し進めていくこともできなくなるはずなんです。

そして、その大きな声のうねりも、まずは、一人の声から始まるのです。子どもたちに平和な未来を手渡すために、私は、声を

あげ続けます。王様は裸だと、いんちきなものはいんちきなだと声をあげ続け、廃案まで行動を続けていきます。皆さんも、ともに声をあげていきましょう。

